

令和 7 年度湧別町保健医療福祉協議会

第 1 回食育部会

会議録

日時 令和 8 年 1 月 15 日 (木) 13 時 30 分～

場所 湧別町保健福祉センター会議室

(会議次第)

1. 開会
2. 部会長・副部会長の選出
3. 部会長挨拶
4. 協議事項
「第3期湧別町食育推進計画」（令和8年度～令和12年度）の策定について
5. 今後のスケジュール
6. 閉会

(出席委員)

小幡 敏 委員、猪熊 広樹 委員、上松 晶子 委員、深澤 一博 委員、佐藤 敏正 委員、森 義文 委員、古川 宏道 委員、長谷川 昌枝 委員 計8名

(欠席委員)

井上 直美 委員、松下 久美子 委員 計2名

(事務局)

町健康こども課長 大塚 幸夫、健康相談グループ主幹 杉森 伸一、
健康相談グループ主査 中川 涼子、健康相談グループ主任 太田 美穂

(傍聴者)

なし

(協議てん末)

(1) 部会長・副部会長の選出

部会長 小幡 敏 委員
副部会長 猪熊 広樹 委員

(2) 諮問事項

「第3期湧別町食育推進計画の策定について（令和8年度～12年度）の策定について

- 議長 小幡部会長
- 議案説明 事務局 健康相談グループ 主幹 杉森
議案資料に基づき概要説明

○意見・質疑

森委員)

P7の第2期計画の振り返りの中の「学校給食における食べ残し」の結果について、学校給食で食べ残しを減らすための工夫というのは、現場でどんなことをされているのか、例えば改善の工夫について何をしているのか。

事務局)

直接学校に話を聞いてはいないのですが、子どもがゆうべつ学園に通っていて、食べられないものは最初から量を減らして他の食べられる子どもが食べるとか、そういった形で食べ残しをしないような取り組みをしているようです。

学校全体でどのような取り組みをしているかというのについては、分からぬ状況です。

森委員)

子どもはそれぞれ個性があって、心身の理由で食べるられる子と、食べられない子もいるし、一概に食べられないことが悪いとか、食べ残したら悪いということは言えないし、責められないと思う。

そのあたり、分別することは難しいだろうなと思ったので、どんなことをしているのかなと思いました。

猪熊委員)

P16の湧別町で取り組んでいる食育関連事業のなかで、商工会では屯田七夕まつりで農協の牛乳無料配布くらいしか食育的なことを実施していません。

それを記載するのならば、商工会女性部の「チガイのわかるカレー事業」を記載していただきたい。町内の店舗でも提供され、加工センターで缶詰にして、缶ちがいカレーも作っており、湧別産のホタテと玉ねぎを使っています。すぐ一生懸命取り組んでおり、全国の商工会でも発表しています。

小幡部会長)

書き方を変えましょうか。

猪熊委員)

はい。

森委員)

漁協の女性部で、青年漁業士とあわせて学校で鮭のさばき方やホッケの料理だとか毎年やっている授業があり、まさに食育事業であるので、具体的に記載してほしい。

事務局)

確認して掲載します。

深澤委員)

P10 に栄養バランスを考えた食生活の実践、適量を意識する、間食の摂り方を工夫する、基本的な調理技術を身につけると書かれています。

ところが、栄養バランスを考えた食事の実践というのは普通はできない。その場にあるもので作って食べる、というやり方というのが非常に多い。

これらのことを行っていくのであれば、これらに関するレシピ集を作成して、それを各家庭に配布するような細やかな政策が必要であると思います。

それをなしに、栄養バランスを考えた食事というのは、我々栄養士でないので、ちょっと無理です。

以前にあったバランス丼や広報に載っているヘルシースプーン会のレシピ、そういったものも踏まえてバランスを考えたレシピ集、湧別町の食育レシピ集というものを作っていて、それを見ながら各家庭で実践をしていくというような、習慣づけていくようなことも必要じゃないのかな。

第2期の評価に、幼少期からの正しい食習慣を身につけられるような家庭での取り組みと書いてあり、家庭での取り組みというのは基本なんです。給食は基本じゃないんです。家庭での食事、食習慣というのが基本なんですよね。これをまず作り上げないと、食育というのはいくらやっても絵に描いた餅になるだけだという気がします。

ですから、家庭の中に食育という形で入るというようなことを、施策として取り組んでいくことを考えていただきたいと思います。

森委員)

第2期の現在の計画の振り返りで、数値的な評価を報告されていますけれども、深澤さんがおっしゃったような、これを実現するための具体的な施策はないんですか。

事務局)

バランス丼という主食と主菜と副菜が揃った一品物を作ってバランスのいい食事について学ぶ料理教室をやっていた時期があったり、町にあるヘルシースプーン会で、野菜を摂れるレシピを町の図書館や町内のお店で配布したりというような活動や、児童を対象にした調理体験など、いくつか取り組みはさせていただきました。

森委員)

そうするとそこに行かない、そういった機会に合わない限り、私も含めて見ることはできません。

この方針というのは全町民を対象にするわけですよね、全町民を対象にした啓発、具体的な啓発活動を考えるべきだと思うんですね。すべてのライフステージの中で主体はすべて家庭ですから…。今、多種多様になって実際手をかけられる家庭もあれば、かけられない場合もある。

一件一件を配慮できないし、一件一件に押し付けることもできないけど、具体的にこういったことを目指しましょうというのは等しく啓発すべきじゃないかなあ。

今の取り組みはわかるけれども、それはその場に行って、そこを利用してそこで買い物をしないと得ることができない。

深澤委員)

ホタテをもらいました、お刺身で食べましたじゃなく、こういう食べ方も、調理の仕方もありますっていうのが、地産地消として広げていく大事なテーマだと。

例えばホタテとバターが配布され、親子でこうして食べよう、玉ねぎもあるからどうやって食べようと、レシピがついていれば親子で考えて…というのが食育につながると思います。一番大事なのは食べることの楽しさなんです。

それがきちんと盛り込まれないと食育という言葉だけが先に行っちゃって、なんにも残らないことになります。

食育を家庭の中に位置づけてもらえるような取り組みの仕方、取り組ませる方をこの場で提案していくことが大事だと思います。それが政策だと思うんですよね。

そのためには湧別レシピっていうのが必要なんです。それによって栄養バランスというものをきちんと考えることもできるし、食材をこういう風にして食べたらよいというのもわかるし、特定健診結果の改善にもつながっていくかもしれないと思います。

それなしに、ただ単に栄養バランスを考えた食事をしてねと言われても、わからないんです。それをきちんと発信していく力が大事じゃないかな、と思います。

小幡部会長)

それらをまとめて、指標の中に一つ項目を入れたほうがよいでしょうか。

森委員)

指標は原案でいいと思います。計画が成立した後で深澤さんが言った具体的な案を推進するということです。

小幡部会長)

指標の中にレシピを配布したというような、目標数値を使わなかつたらダメかなと思つたりもします。

森委員)

ここに具体的に落とし込むのは難しい。落とし込めればよいが…どうなんでしょうか。

大塚課長)

深澤委員、森委員から貴重なご意見をいただきました。

私も、なるほどというふうに思っていますので、今後計画の中で実践について検討していきたいなとは思っています。

ただ、森さんに言っていただいたように、今のこの計画に盛り込むのは難しいので、計画はこれとさせていただきまして、実践の中で町民向けのレシピの作成だとか、そういうものを作成する方向でやっていきたいなと思います。どうしても盛り込むとなれば、また検討させていただきます。

小幡部長)

実際にやるだけでは、5年間過ぎていってしまう気も…。

森委員)

きちんと議事録に残るわけなんでしょう。

この計画案については承認しました。

そして、ここで出た具体的なこと、実効性、有効性を持った政策、深澤さんが提案したことを見切り取り組んでください。

その具体的な提案があったわけだから、きちんと議事録に残して生かしていくわけです。

小幡部会長)

そういう形でいきたいと思います。他にありませんか。

全体)

異議なし

小幡部会長)

それではすべて説明が終わりましたが、計画はこの通りで進めて諮問を受けるという形になります。全体として何かありませんか。

全体)

異議なし

小幡部会長)

なければ第5番、スケジュールの関係についてです。

3. 今後のスケジュール

事務局案のとおり

パブリックコメントを経て、意見があり協議が必要な場合に部会長に相談させていただき、再協議が必要と判断される場合には部会を開催し、最終案を決定。

意見がない場合、部会は今回にて終了とする。

決定した部会案を協議会（全体会）へ報告することで申し合わせた。

4. 計画の修正

P16 湧別町で取り組んでいる食育関連事業の生産者・食関連団体の事業内容について、別紙の通り修正案を提案する。

- ・漁協の取組について…水産林務課へ確認
- ・農協の取組について…農政課へ確認
- ・商工会の取組について…商工会事務局長へ確認